

大学間交流協定の締結

工学研究院では、モントリオール工科大学(カナダ)、天津大学(中国)および国立高雄大学(台湾)と新規の大学間交流協定を締結しました。

モントリオール工科大学

(カナダEcole Polytechnique de Montreal)

2005年3月1日に、教育研究プログラムの推進、教員・研究者等の交流、文書の交換・会議の開催、大学院生の交流を目的として交流協定が締結されました。

モントリオール工科大学は130年以上の歴史を持つとともに、モントリオール大学のキャンパス内に位置しており、モントリオール大学内の工学部の要素を併せ持つフランス語系の工科大学です。教員数は220人、学生数は学部生3700人、大学院生1700人です。

2002年9月より約10ヶ月、モントリオール工科大学で燃料電池の研究を行っているサバドゴ教授がサバティカルを利用して工学研究院の太田・神谷研究室に滞在し、燃料電池に関する研究を行いました。その後、2003年8月より一年間、光島重徳助手がモントリオール工科大学の招聘研究員として滞在しました。その間、本学の卒業生がモントリオール工科大学の大学院に進学しました。そこで、さらに交流を継続的に行うために交流協定を結ぶこととし、包括的な協定と交換留学生に関する覚書を交わしました。

交流協定締結後、2005年5月に光島重徳助手がカナダを訪問し、207回米国電気化学学会大会で燃料電池の電極反応に関する研究発表を行い、モントリオール工科大学を含む参加者との技術討論を行っています。会議終了後、モントリオール工科大学を訪問し、新規の燃料電池材料に関する技術情報交換を行いました。

天津大学

(中華人民共和国Tianjin University)

2005年8月16日に、研究者および教職員の交流、学部学生および大学院生の交流、共同研究、学術情報、資料および刊行物の交換を目的として交流協定が締結されました。



天津大学は、1895年に中国で最初に設立された総合大学で、16学部(機械工学部(3学科)、精密機器と光電子工学部(5学科)、電子情報工学部(4学科)、ソフト学部(1学科)、電気と自動化学部(2学科)、建築学部(4学科)、環境化学工学部(3学科)、化学工学部(5学科)、薬物化学と技術学部(1学科)、材料化学工学部(3学科)、管理学部(7学科)、理学部(3学科)、社会科学と外国語学部(3学科)、映画テレビ学部(2学科)、農業とバイオ工学部(1学科))、および大学院124専攻を有します。教員数は4500人、学生数は学部生24500人、大学院生7500人です。顕著な学問分野は建築工学、化学工学、流体力学、管理科学などです。

天津大学との交流協定は、2005年3月まで、天津大学出身の劉猛講師が本学大学院修了後、工学研究院システムの創生部門に所属していたことが契機となりました。2005年3月に、宇高義郎教授と王世学助手が天津大学を訪問し、講義を行いました。

交流協定締結後、2005年11月には、宇高義郎教授が天津大学の招聘により、講演および集中講義を行い、2006年5月には天津大学趙軍教授が本学を来訪しました。